



8 月 号
令和元年 8 月 22 日

桜花爛漫

郷土を舞台に 夢に向かい ともに歩む学校

桜花爛漫・飛翔若鷹

ひとり歩きのできる子
～つながる力を育む～

検索 庄川まちづくり協議会

今 夏 の 海 と 山

校 長 水 口 悟

天地始めて肅し(処暑 次侯 てんち はじめて さむし)

ようやく暑さが収まりはじめるころ。夏の気が落ち着き、万物があらたまる時期とされます。(新暦では、およそ八月二十八日～九月一日ごろ 日本の七十二候を楽しむより)

◇ ひとり歩きできる子の ‘第23回 新島研修’



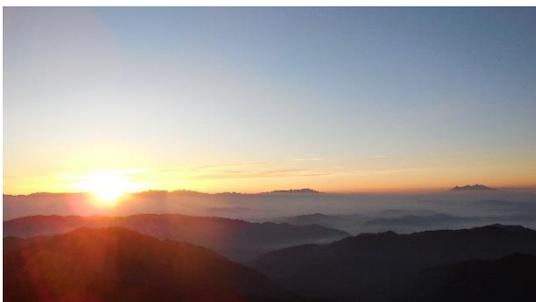
7月20～22日、新島研修に行ってきました。全国的に梅雨が長引き、天候がとても心配されましたが、研修中は雨に降られることなく今年も全員元気で帰ってくることができました。毎年、式部の庵の裏でお墓参り用のお水を汲ませてもらいます。女将さんが「私たちはなかなか行けないので、私たちの分までお参りして来てくださいね」と言われます。新島の美しい海を満喫したい！早く新島小学校の友達と会いたい！という気持ちと同時に、23回目となるお墓参りをしっかりしてこよう！と身が引き

締まります。

JRの乗り換えも混雑する東京駅の移動も9名の子どもたちはスムーズにこなし、気がつけばジェット船の窓から新島が見えてきます。台風の影響で海が少しうねり、毎年とは違う桟橋に船が着くと「こっち！こっち！」という教育長さんの声が聞こえます。小走りで行くと「歓 ようこそ新島村へ迎」の横断幕と新島小学校6年生や関係者の姿が見えます。「昨日までの雨が上がったのは、きっと甚兵衛さんのおかげです」という新島小学校長の挨拶。いつものことながら、新島研修の3日間は甚兵衛さんに守られているような気がします。新島小学校6年生によるトランペット鼓笛を聞くと新島へ来たんだという実感がますます湧き、約240年前に甚兵衛さんが見た新島の美しい景色や優しい島民の人達との出会いの一つ一つを大切にしなければと気持ちが高まります。

長栄寺で新島小学校6年生のみなさんとペアになって焼香する姿は、とても美しい。毎日、墓守活動をしてきている新島小学校6年生と庄川小学校6年生が、年に一度だけ一緒になって手を合わせお参りする姿は、本当に美しい。新島の空の上で甚兵衛さんが、ニコニコと微笑んでいるような気がします。庄川小学校の児童は、来年も再来年も必ず来ますよ！

まちづくり協議会の皆さんには、3年前から保護者の方も引率できるようにと予算化をして頂きました。「子どもたちから土産話を聞くのもいいけれど、子どもたちがどんな体験をしているのかを親の目で見てくることも大切」という言葉を思い出します。仕事がある中で2泊3日の予定を作ることは、難しいことかと思いますが、保護者の方の引率も可能！ということ実証されつつあります。毎年無理をせず、続けられるとよいと思います。それが庄川のすばらしさだと思います。



◇ ひとり歩きできる子の ‘第3回 白山登山’

8月10～11日に、白山登山に行ってきました。庄川支所による計画で、3回目を迎えました。家族や子どもたちの参加が増えました。私(大人)はクタクタになりますが、子どもたちは回復力があり、直ぐに元気になります。日本海に沈む幻想的な夕陽、カシオペア座を探さなくてはならないくらいの満天の星、雲海に浮かぶ乗鞍岳や御岳山。石川県側に三角形をつくる御前ヶ峰の陰。「庄川中学校から望む白山が一番きれい！」

という同行の方の言葉。皆で本当にあそこに登ったのかと不思議な気持ちになります。